

第2章 ASEANの貿易構造と特定国への依存リスク軽減の動き

第1章で確認したように、世界の財貿易量については、半導体の需要鈍化の影響や、中国経済の減速等を受けて2022年後半は横ばいで推移している。

一方で、中長期的な貿易動向に着目すると、ASEAN¹³⁵諸国は、発展段階に応じて各国が高い成長率を維持する中で、貿易面では更にペースの早い拡大がみられており、背景の一つにはサプライチェーンの継続性（加えて米中貿易摩擦）の観点からの代替的な生産拠点の確保（いわゆる「チャイナ・プラスワン」）の動きがあると考えられる。本章では特にASEAN諸国とアメリカ及び中国との貿易面の相互依存関係や、特定国からの供給に依存する品目の状況等について分析を行う。続いて直接投資の動向を通じて、第1章でも指摘したサプライチェーンにおける特定国への依存リスクの軽減に向けた動きについて分析する。最後にASEAN諸国に対する諸外国の関係強化の動きを概観する。

第1節 ASEAN諸国の貿易構造

1. ASEAN諸国の貿易の拡大

本項ではまずASEAN諸国の貿易の拡大を概観する。その際、特に中国やアメリカ等との貿易動向を輸出入両面から確認する。

（世界貿易の中でASEANの存在感が上昇）

ASEANと日本、アメリカ、中国の貿易について、2015年からの変化を概観する（第2-1-1図）。2021年の財の世界貿易額が2015年比で34.5%増加し、約22兆ドルとなる中で、ASEANの対中輸入額は2015年から73.4%増の4,836億ドル、対中輸出額は99.5%増の2,830億ドルとなり、ASEANは中国との輸出入を大きく拡大している¹³⁶。この間、中国の対米輸出額は40.6%増の5,776億ドル、対米輸入額は30.0%増の1,511億ドルとなっ

¹³⁵ 東南アジア諸国連合（Association of South East Asian Nations）。東南アジアの10か国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）で構成される。ASEANは、2022年11月11日、東ティモールを11番目の加盟国として承認することで原則合意したと発表した。本稿では、執筆時点（2022年12月末）の正式な加盟国である10か国を表す。

¹³⁶ Li et al (2019) は、(1)2000年代以降、中国はアジア地域で付加価値需要及び供給両面での中核を担うことになり、ASEAN諸国との貿易関係も深まった、(2)ASEAN諸国も過去20年で国際生産ネットワークへの統合が進み、アメリカの製造業財の貿易赤字に占めるシェアが高まった（2000年11.5%、2017年14.7%）、と指摘。また、経済産業省（2019）は、ASEAN諸国は、電気機械や一般機械部門で中国に部品を供給（輸出）し、かつ、中国で完成された財を最終需要（輸入）する関係にあると指摘。貿易総額面においては部品分の重複が生じていることに留意が必要。

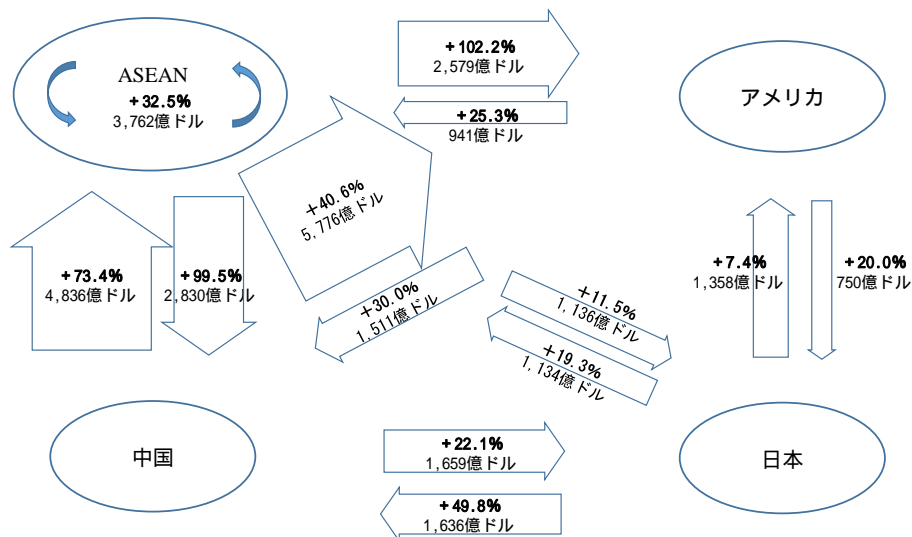
ており、輸出額は中国からアメリカ向けが大きいものの、輸出入双方の伸び率はASEAN向けが大きく、経済成長の著しかったASEANと中国¹³⁷の貿易依存関係が急速に深まったことがうかがえる。

また、ASEANの域内貿易は32.5%増の3,762億ドルとなっており、加盟国が相互に市場として成長してきたことが分かる。

さらに、ASEANの対米輸出額は約2倍の2,579億ドルと中国向け輸出額と拮抗するまで増加するものの、対米輸入額は25.3%増の941億ドルにとどまり、ASEANはアメリカに対して相対的に財・サービスの供給源として成長してきたとみられる。

なお、この間の日本の対ASEAN輸出入の伸び率は、アメリカ、中国と比べてやや低い水準にとどまっている。

第2-1-1図 2021年のASEANの輸出入額及び2015年比（USドル）



(備考) 1. IMF Direction of Trade Statisticsより作成。
2. 金額は2021年、%表示は2015年からの伸び率。

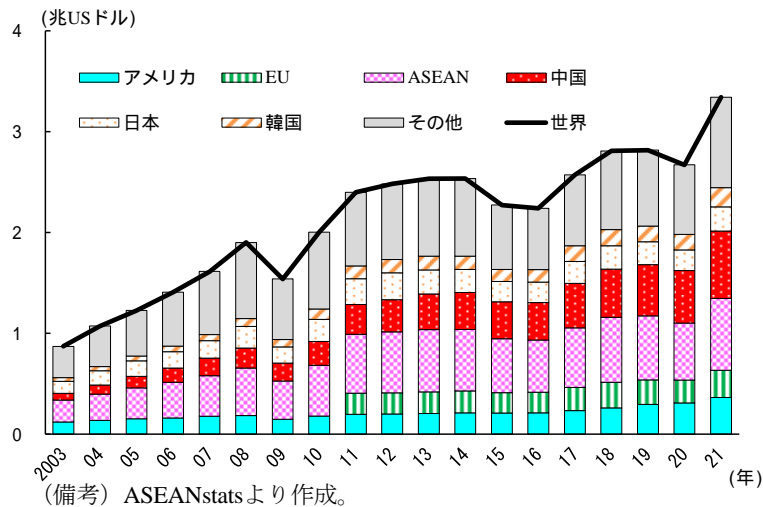
ASEAN諸国の貿易総額について、世界側の内訳をみると、2011年¹³⁸から2021年の10年で、各国・地域で総じて顕著に増加している（世界1.4倍、アメリカ1.8倍、EU1.3倍、ASEAN1.2倍、中国2.3倍、日本0.9倍、韓国1.5倍）（第2-1-2（1）図）。ASEAN側の内訳をみると、各国で増加しており、特にベトナムで顕著となっている（2021年は2003年比14.7倍、2011年比3.3倍、2020年比+22.8%）（第2-1-2（2）図）。

¹³⁷ 名目GDP（USドル）は、2000～2021年の間、中国は+1,372%（年平均+13.7%）、ASEANは+418%（年平均+8.1%）成長。IMF WEOデータベース（2022年10月）より計算。

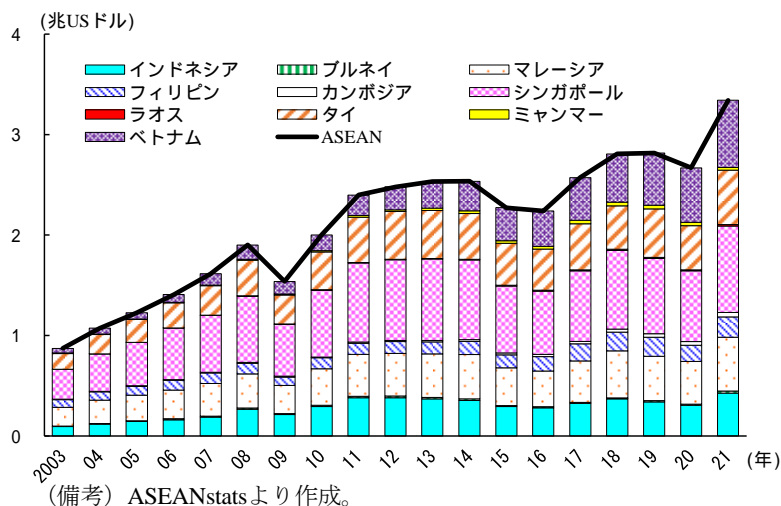
¹³⁸ ASEAN事務局の提供するデータベースASEANstatsで、内訳としてEUのデータが利用可能な期間の始期。

第2-1-2図 ASEAN諸国の貿易総額（対世界）

（1）世界側の内訳



（2）ASEAN側の内訳



こうしたASEAN諸国の貿易額の増加は、ASEAN諸国と世界各国との貿易の相互依存関係の高まりにもつながっているだろうか。輸出総額に占める輸出先のシェアをみると、世界の輸出先としてのASEANの比率は2003年の5.4%から2021年時点で7.6%まで上昇した（第2-1-3図）。同期間中の推移は、中国（5.2%→10.4%）、韓国（2.2%→2.7%）、日本（4.6%→3.2%）、EU（35.4%→29.6%）、アメリカ（15.9%→13.1%）であり、先進各国向け輸出の比率が横ばいからやや低下する中で、中国やASEANといった新興国向け輸出の比率の高まりがみられる。

第2-1-3図 貿易の相互依存関係（米、中、日、韓、ASEAN）

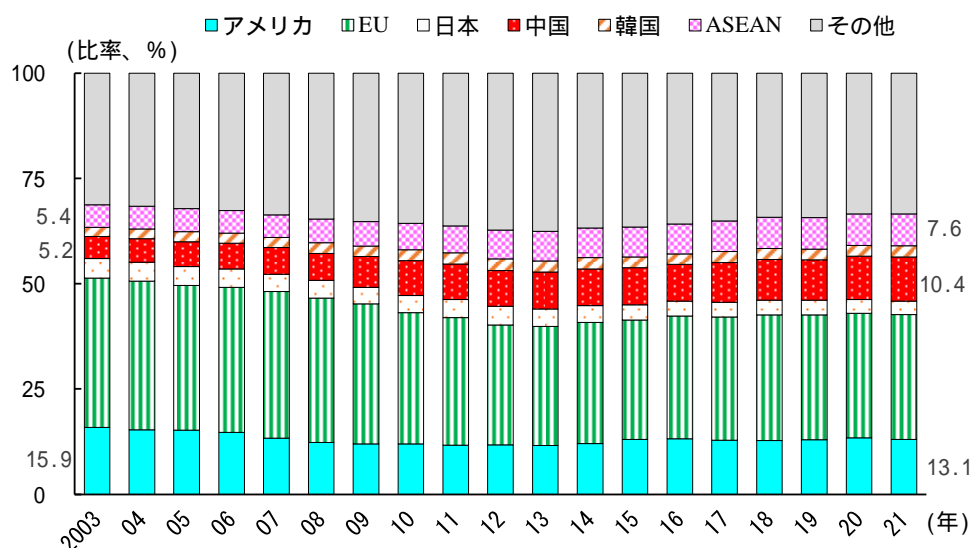
（１）輸出総額に占める輸出先のシェア（2021年）

（％）

輸出元\輸出先	世界	アメリカ	EU	日本	中国	韓国	ASEAN
世界	100	13.1	29.6	3.2	10.4	2.7	7.6
アメリカ	100		15.5	4.3	8.6	3.7	5.4
EU	100	7.1	61.0	1.1	4.0	0.9	1.4
日本	100	18.0	9.2		21.6	6.9	15.0
中国	100	17.1	15.4	4.9		4.5	14.4
韓国	100	14.9	9.9	4.7	25.3		16.9
ASEAN	100	15.1	8.9	6.6	16.5	4.1	22.0

（備考） IMF Direction of Trade Statistics (DOTS) 2022年9月30日版より作成。

（２）世界の輸出総額に占める輸出先のシェアの推移（2003～2021年）



同様に、輸入総額に占める輸入先のシェアをみると、世界の輸入先としてのASEANの比率は2003年の6.2%から2021年時点で7.8%に上昇した（第2-1-4図）。同時期の推移は、中国（5.7%→15.3%）、韓国（2.5%→2.9%）、日本（6.2%→3.4%）、EU（37.3%→30.1%）、アメリカ（9.5%→8.0%）であり、先進各国のシェアが微増から低下にとどまる中で、中国やASEANといった新興国からの供給への依存度の高まりがみられる。

第2-1-4図 貿易の相互依存関係（米、中、日、韓、ASEAN）

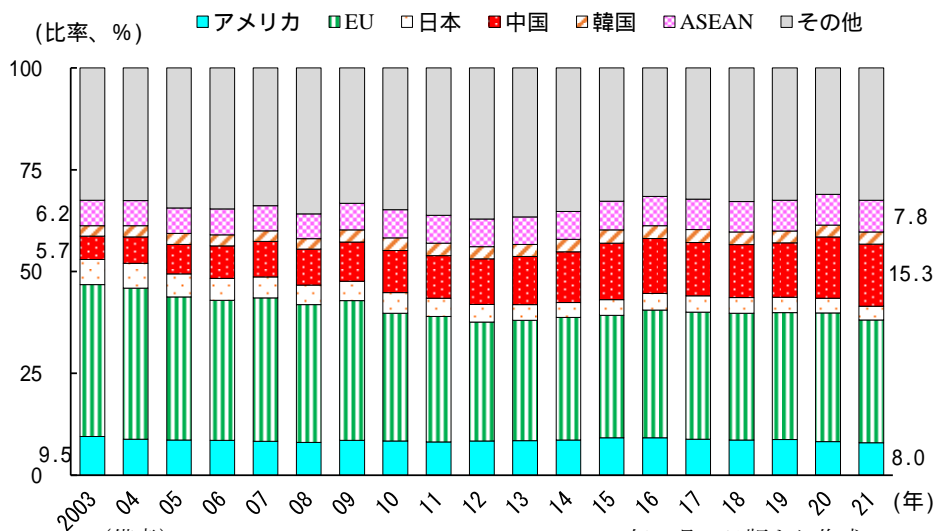
（ 1 ） 輸入総額に占める輸入先のシェア（2021年）

（ % ）

輸入先\輸入元	世界	アメリカ	EU	日本	中国	韓国	ASEAN
世界	100	100	100	100	100	100	100
アメリカ	8.0		4.2	10.6	6.6	11.2	5.7
EU	30.1	16.4	61.9	10.4	11.5	10.5	5.7
日本	3.4	4.7	1.1		7.1	9.0	6.8
中国	15.3	20.1	7.9	23.5		25.7	29.1
韓国	2.9	3.3	1.0	4.3	7.1		6.5
ASEAN	7.8	9.0	2.3	16.1	12.3	12.0	22.6

（備考） IMF Direction of Trade Statistics (DOTS) 2022年9月30日版より作成。

（ 2 ） 世界の輸入総額に占める輸入先のシェアの推移（2003～2021年）

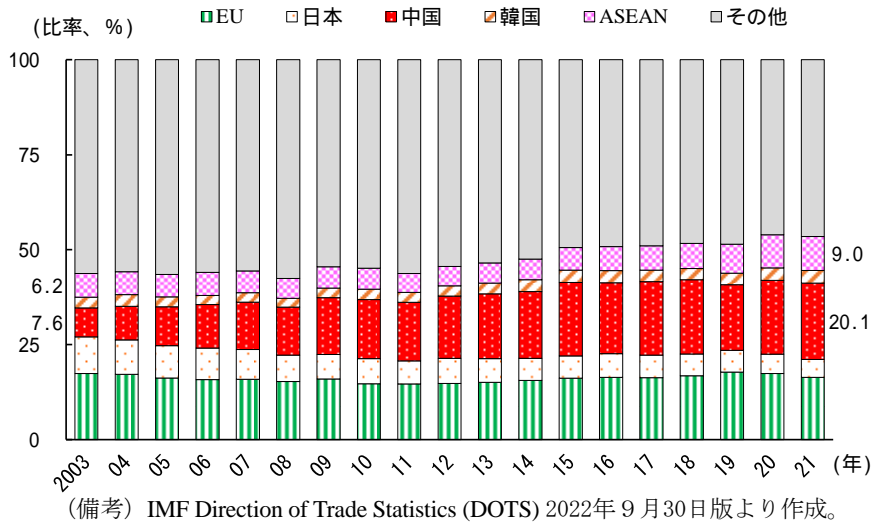


それでは、同期間に主要国・地域の輸入依存度はどのように変化してきただろうか。各国・地域の輸入先のシェアの推移（2003～2021年）をみると、

(i) アメリカにおいては、EU（17.4%→16.4%）、日本（9.7%→4.7%）、中国（7.6%→20.1%）、韓国（2.8%→3.3%）、ASEAN（6.2%→9.0%）と、中国とASEANの比率の高まりが顕著となっている（第2-1-5（1）図）。

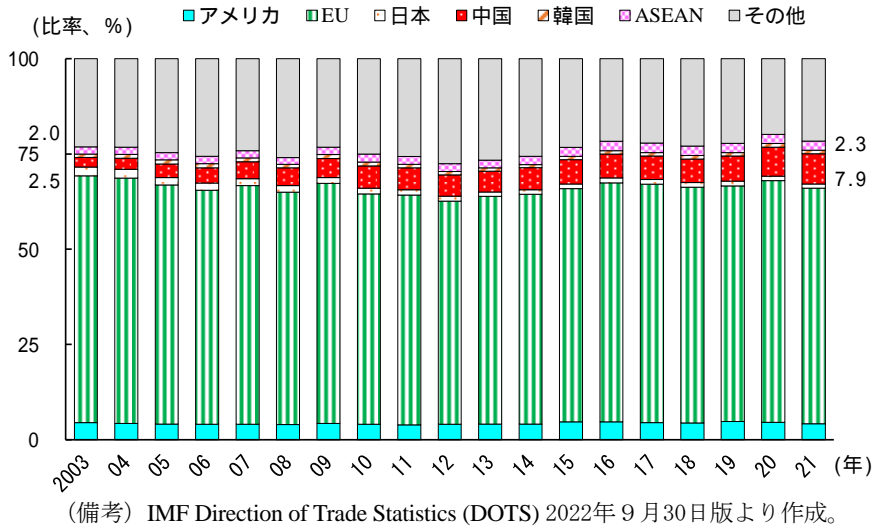
第2-1-5図 貿易の相互依存関係（米、中、日、韓、ASEAN）

(1) アメリカの輸入総額に占める輸入先のシェアの推移（2003～2021年）



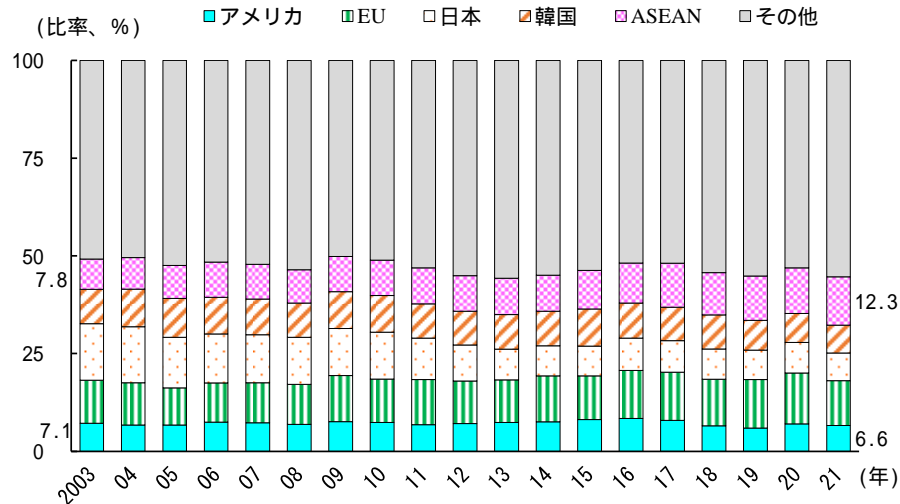
(ii) EUにおいては、アメリカ（4.5%→4.2%）、EU（64.8%→61.9%）、日本（2.3%→1.1%）、中国（2.5%→7.9%）、韓国（0.9%→1.0%）、ASEAN（2.0%→2.3%）と、EU域内の貿易が大部分を占める中で、中国はシェアを高め、ASEANも小幅ながらシェアが高まっている（第2-1-5（2）図）。

(2) EUの輸入総額に占める輸入先のシェアの推移（2003～2021年）



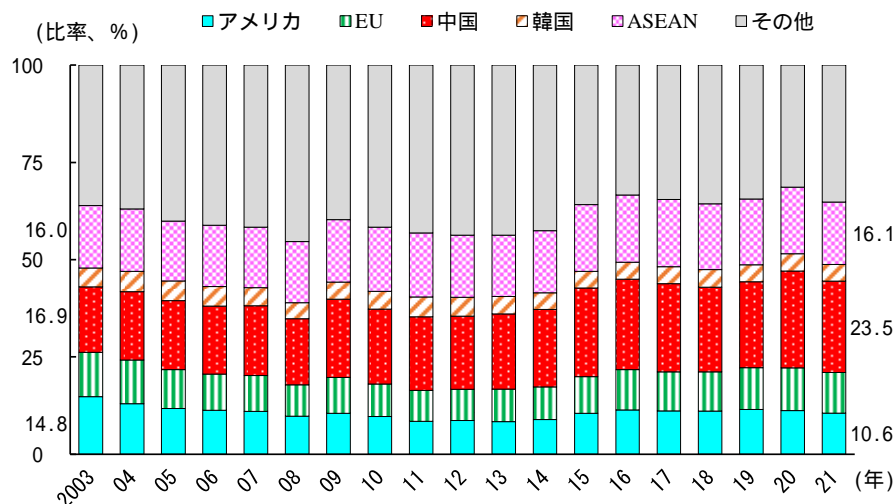
(iii) 中国においては、アメリカ (7.1%→6.6%)、EU (11.0%→11.5%)、日本 (14.4%→7.1%)、韓国 (8.8%→7.1%)、ASEAN (7.8%→12.3%) と、ASEANの比率の高まりがみられる (第2-1-5 (3) 図)。

(3) 中国の輸入総額に占める輸入先のシェアの推移 (2003~2021年)



(iv) 日本においても、アメリカ (14.8%→10.6%)、EU (11.4%→10.4%)、中国 (16.9%→23.5%)、韓国 (4.9%→4.3%)、ASEAN (16.0%→16.1%) と、中国とASEANの比率が高水準で維持されている (第2-1-5 (4) 図)。

(4) 日本の輸入総額に占める輸入先のシェアの推移 (2003~2021年)

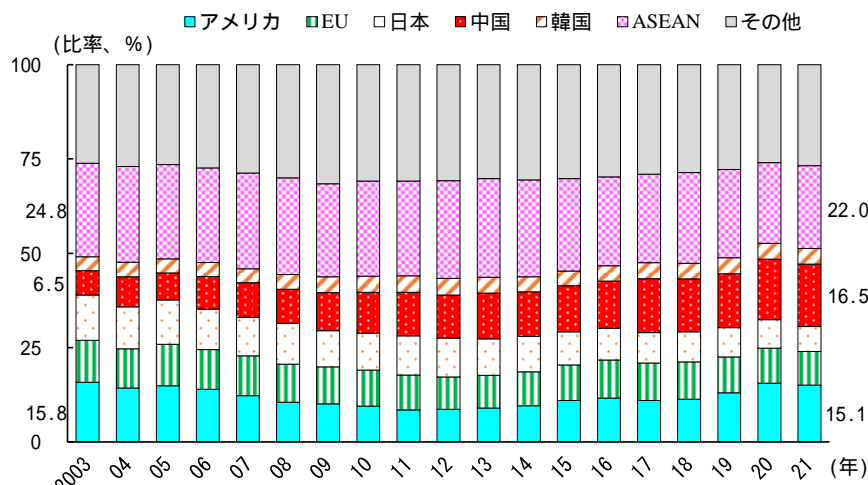


ASEAN諸国にとっては、どの国・地域のシェア（依存度）が高まっているだろうか。ASEAN諸国の輸出総額に占める輸出先のシェアの推移（2003～2021年）をみると、アメリカ（15.8%→15.1%）、EU（11.1%→8.9%）、日本（11.9%→6.6%）、中国（6.5%→16.5%）、韓国（3.7%→4.1%）、ASEAN（24.8%→22.0%）と、中国について顕著な高まりがみられる（第2-1-6（1）図）。

ASEAN諸国の輸入総額に占める輸入先のシェアは、アメリカ（11.0%→5.7%）、EU（9.2%→5.7%）、日本（14.9%→6.8%）、中国（7.5%→29.1%）、韓国（4.9%→6.5%）、ASEAN（28.6%→22.6%）と、2021年には中国からの供給に対する依存度が2003年の4倍近くに拡大し、ASEAN域内からの輸入を上回る規模となっている（第2-1-6（2）図）

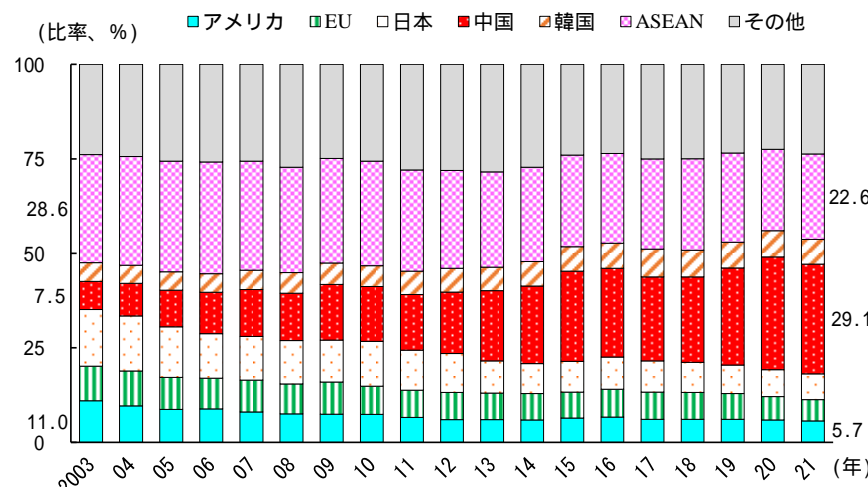
第2-1-6図 貿易の相互依存関係（米、中、日、韓、ASEAN）

（1）ASEAN諸国の輸出総額に占める輸出先のシェアの推移（2003～2021年）



（備考） IMF Direction of Trade Statistics (DOTS) 2022年9月30日版より作成。

（2）ASEAN諸国の輸入総額に占める輸入先のシェアの推移（2003～2021年）



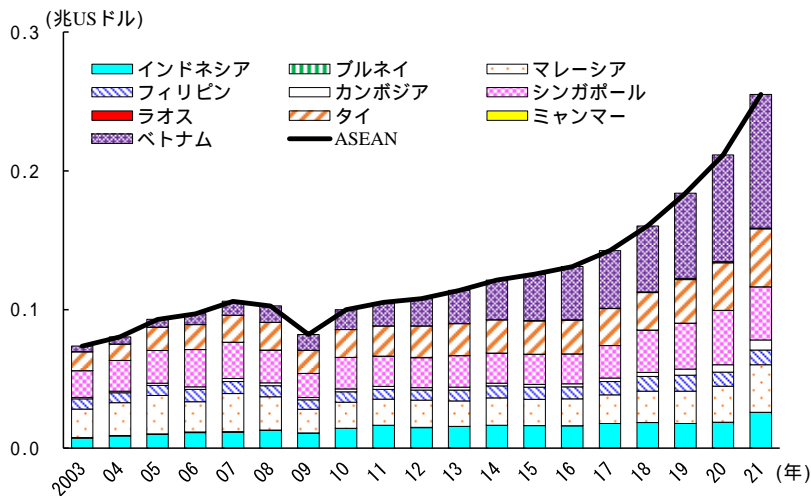
（備考） IMF Direction of Trade Statistics (DOTS) 2022年9月30日版より作成。

（米中貿易摩擦・感染症拡大の下で、ASEANの対米及び対中輸出は更に増加）

近年、米中貿易摩擦や感染症拡大といったサプライチェーンに影響する問題が発生しており、貿易の安全保障（リスクヘッジ、損失の最小化）の観点からも、ASEANの重要性は高まっている。こうした中で、ASEANの対米・対中貿易関係はどのように推移したのだろうか。2003年¹³⁹以降の推移をみると、ASEANの対米輸出は、2008～2009年の国際金融危機の時期を除き、一貫して増加している。輸出金額の年平均の伸び率は、国際金融危機を挟んで2003～2007年は+9.5%、2010～2017年は+5.2%と減速したが、米中貿易摩擦の拡大後の2018～2021年は+15.7%と加速がみられている。この加速は、感染症拡大で世界経済の減速や供給制約が発生する不利な状況の下でも衰えることは無く¹⁴⁰、2020年には+15.1%、2021年には+20.6%に達した（第2-1-7図）。

国別にみると、最も伸び率が大きいのは他のASEAN諸国に比べて積極的な自由貿易協定（FTA）戦略を展開し低関税で輸出ができるベトナムである¹⁴¹。ASEANの対米輸出シェアでも、ベトナムの比率は急速に高まっている（2003年は5.4%、2021年は37.7%）。

第2-1-7図 ASEAN諸国の対米輸出



（備考） ASEANstatsより作成。

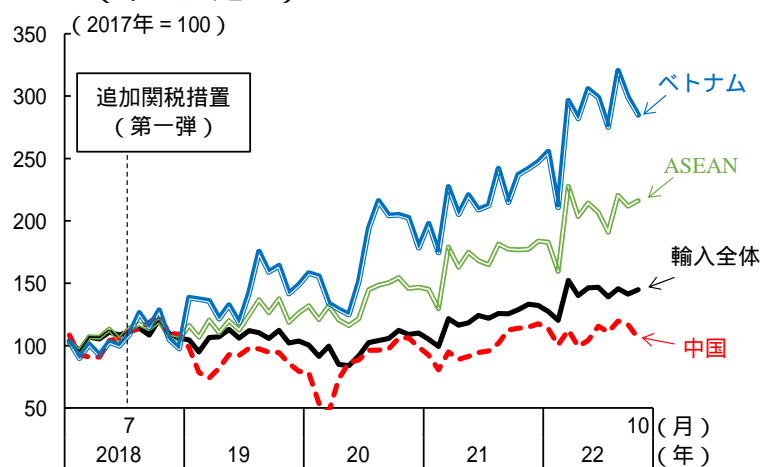
¹³⁹ ASEAN事務局が整備するデータベースASEANstatsにおいて遡及可能な期間。

¹⁴⁰ 2020年の世界の実質経済成長率は▲3.0%、財貿易は名目▲7.0%（実質▲5.0%）（IMF、WTO）。

¹⁴¹ 内閣府（2022）では、海外企業はベトナムに拠点を置くことにより、世界のより多くの市場に有利な条件でアクセスできるとしている。また、ベトナムの対米輸出の年平均伸び率は、国際金融危機前の2003～2007年は+26.6%、2011～2017年は+16.6%であったが、米中貿易摩擦の拡大後の2018～2021年は+23.3%。感染症拡大期の2020年でも+25.5%、2021年+25.0%となっている。

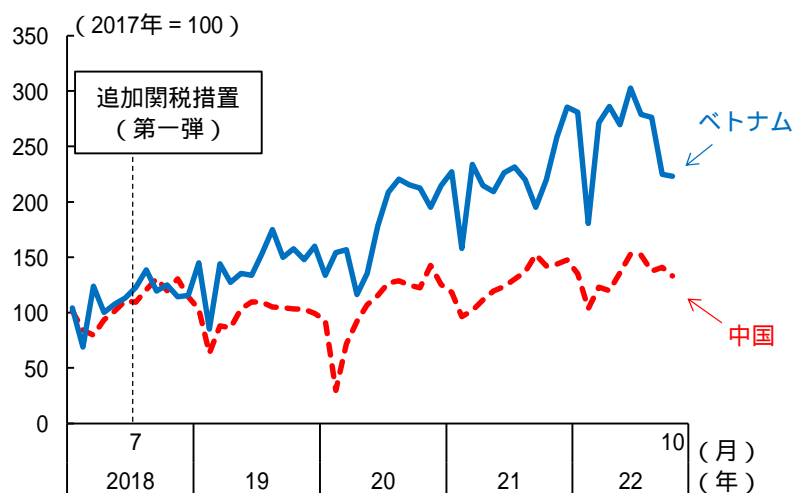
このようなASEANの対米輸出の拡大の背景としては、米中貿易摩擦が本格化した2018年以降の中国企業によるASEAN諸国への生産移管の可能性が指摘されている¹⁴²。アメリカの中国及びASEANからの輸入をみると、2018年以降は中国からの輸入が伸び悩む中で、ASEAN（特にベトナム）からの輸入は大きく増加している（第2-1-8図）。当該データは米ドル建てであるため為替変動の影響が含まれるが、現地通貨建てでも、2017年を基準としたときのベトナムの対米輸出の水準は、中国のそれを大きく上回って推移している（第2-1-9図）。

第2-1-8図 アメリカの輸入の推移（中国、ASEAN、ベトナム）
（米ドル建て）



(備考) 1. アメリカ商務省より作成。
2. 通関ベース、名目値、原数値。

第2-1-9図 中国、ベトナムの対米輸出の推移（現地通貨建て）



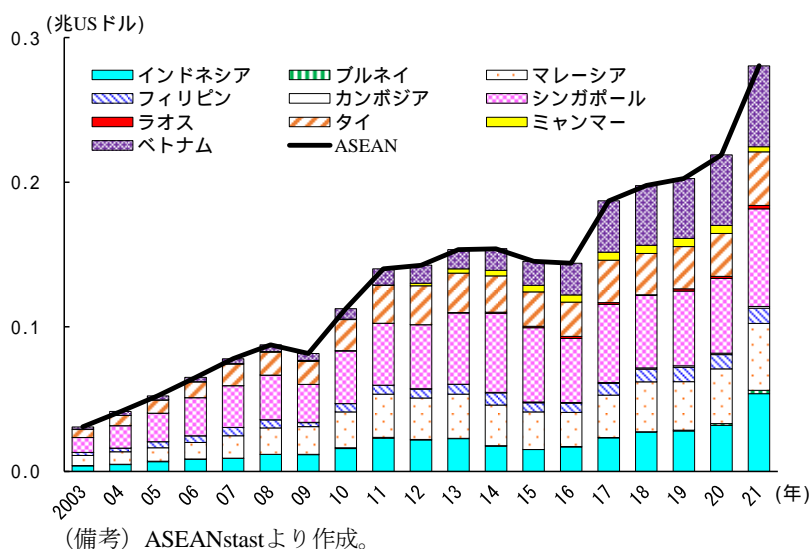
(備考) 1. アメリカ商務省より作成。
2. 通関ベース、名目値、原数値。

¹⁴² 関志雄 (2020)

また、ASEANの対中輸出は、2009年の国際金融危機、2015～2016年の中国株式市場ショックの時期を除いて増加が続いている。年平均成長率は、国際金融危機以前の2003～2007年は+26.1%と極めて高い伸び率であった。2009～2012年は+20.5%と、ASEAN中国自由貿易協定（ACFTA）¹⁴³の正式発効（2010年1月）や中国の内需回復を受けて高い伸びがみられたものの、2012年以降は伸びが一服し、2015～2016年には中国の成長率鈍化に応じた減速がみられた。しかしながら、2018～2021年には+10.7%と再び加速している。感染症が拡大した2020年にも+8.1%とプラス成長を維持し、2021年は+28.2%に達した（第2-1-10図）。

国別にみると、最も伸び率が大きいのは対米輸出と同様にベトナムであり、ASEANの対中輸出シェアで見ても、ベトナムの比率は急速に高まっている（2003年は5.6%、2021年は19.9%）¹⁴⁴。

第2-1-10図 ASEAN諸国の対中輸出



ASEAN諸国の対米・対中貿易について、ASEAN経済共同体（AEC）¹⁴⁵の発足した2015年に対する比率をみると、多くの国々で規模が2倍程度に達するなど大幅な増加となっており、カンボジアやミャンマー等の後発発展国では更に高い比率となっている。

¹⁴³ ASEAN10か国と中国の間で締結された多国間の自由貿易協定。2015年までに一般的な関税低減対象品（ノーマルトラック）の関税を撤廃し、特別な配慮が必要な品目（センシティブトラック、高度センシティブトラック）についても順次関税を引下げ。

¹⁴⁴ ベトナムの対中輸出は、国際金融危機以前の2003～2007年は+17.8%、2010～2012年は+36.2%、2013～2017年は+23.5%、米中貿易摩擦拡大後の2018～2021年は+12.0%。感染症拡大期の2020年でも+18.0%、2021年+14.4%。

¹⁴⁵ ASEAN10か国が財・サービス貿易、投資、労働者移動の自由化等を進める包括的な経済連携。

ベトナムの2016～2021年の年平均成長率は、対米輸出+19.2%、対米輸入+11.7%、対中輸出+22.4%、対中輸入+14.2%と、いずれもASEAN全体を上回っている¹⁴⁶（第2-1-11表）。

第2-1-11表 ASEAN諸国の対米・対中貿易（対2015年比）

（倍）

	ASEAN 全体	インド ネシア	ミャン マー	ラオス	カンボ ジア	ベトナ ム	フィリ ピン	タイ	マレー シア	ブルネ イ	シンガ ポール
対米輸出	2.0	1.6	9.6	2.8	3.4	2.9	1.2	1.7	1.8	0.2	1.8
対米輸入	1.3	1.5	2.0	13.5	1.4	1.9	1.2	1.0	1.3	0.6	1.2
対中輸出	1.9	3.6	0.8	2.2	2.9	3.4	1.6	1.6	1.8	23.4	1.3
対中輸入	1.8	1.9	0.7	1.9	2.3	2.2	2.7	1.6	1.7	1.5	1.3

（備考）ASEANstatsより作成。

（ASEAN諸国の貿易：一部には中国のASEANを介した対米輸出が示唆される動きも）

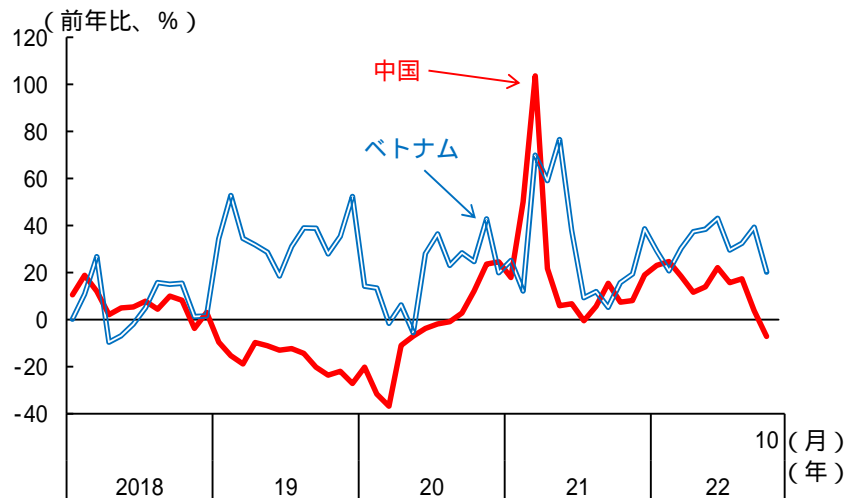
（i）アメリカの対中輸入の減少と対ベトナム輸入の高まり

ASEANの中でも対米輸出シェアが急速に高まったベトナムは、「米中貿易摩擦の漁夫の利を得た」とも指摘される¹⁴⁷。2018年後半から米中貿易摩擦が本格化する中で、アメリカの対中輸入は減少傾向となり、2019年は一貫して前年比マイナスで推移した（第2-1-12図）。他方、アメリカの対ベトナム輸入は、2019年に入り一貫して前年比で大幅な伸びとなり、対中輸入と対照的な動きとなった。これには、アメリカ企業が対中輸入の減少を補うべく、ベトナムを始めとしたアジア諸国に輸入先を振り替えたことに加えて、中国企業が追加関税措置を回避するため、ベトナム等で一部の最終工程を経た上で対米輸出を行ったことが影響しているとみられている。2020～2021年の感染症拡大期には、供給制約の発生や、一部の財（防疫物資やパソコン等）への需要急拡大等の影響を受けて、前年比での伸びは大幅に振れることとなった。しかし、2021年後半以降は、前年の反動の影響も落ち着き、対中輸入はプラスで推移しているものの、対ベトナム輸入の方がより高い伸び率となる傾向が続いている。

¹⁴⁶ ASEAN全体（ベトナムを含む）の年平均成長率は、対米輸出+12.6%、対米輸入+4.3%、対中輸出+11.6%、対中輸入+10.1%。

¹⁴⁷ 関志雄（2020）

第2-1-12図 アメリカの輸入額（2019年から対中減少・対ベトナム増加の傾向）



(備考) 1. アメリカ商務省より作成。
2. 通関ベース、実質値、季節調整値。

(ii) 中国のASEANを介した対米輸出と考えられる例：太陽光パネル

中国のASEAN経由の対米輸出と考えられる例として、太陽光パネルが挙げられる。太陽光パネルの対米輸出市場でのシェアをみると、アメリカの輸入規制措置を受けて2012年以降中国が低下する一方で、ASEAN（マレーシア等）が上昇し、特に米中貿易摩擦の本格化した2018年以降の変化が大きい（第2-1-13図、第2-1-14表）。

太陽光パネルの輸出元の変化を巡っては、アメリカの生産者は中国のASEANを介した対米輸出の規制強化を訴える一方、アメリカの消費者や設置事業者は供給不足を懸念している。中国は太陽光パネルの市場占有率が高いため、アメリカにとって対応が難しい状況とされている。